

# μαρτυρία

## マルトウリア

知っておきたいキリスト教のことば (3)

証し あかし

わたしが教会に行き始めたのは中学生の時でした。その通っていた教会で、「証し」がおこなわれていました。牧師先生が他の教会に行き、信徒だけで礼拝を守っていた時に、週報の「説教」のところが「証し」となっていました。

もうずいぶん前の話ですから、どのような内容の「証し」がおこなわれていたのかは覚えておりません。しかし、日常で使う「証し」という言葉のイメージとはずいぶん違うな、と思ったことは記憶にあります。

「証(し)」という言葉の辞書で引いてみました。まず一つ目の意味としては、確かであるというし、また証明することとありました。「愛の証」というように用います。また二つ目には、潔白であること、疑いを晴らす証拠という意味だそうです。「身の証を立てる」という例文が載っていました。

しかし、キリスト教では「証し」とは、ある人の宗教的体験の告白を指します。宗教的体験とは、イエス様を救い主と信じたことで自分が変えられた経験、毎日の暮らしの中で神さまからお恵みをいただいた経験です。そして「証し」はそれらを人に伝えることなのです。

聖書に出てくるイエス様の弟子のペトロや、多くの手紙を残したパウロも、復活のイエス様との出会いを通して自分が変えられたことを「証し」していますし、その後 2000 年間にわたって、様々な所でたくさんの人が神さまを賛美し、神さまに感謝しながら、「証し」をしてきたのです。

わたしたちは日々、神さまからたくさんの恵みをいただいています。その喜びを自分の内に秘めてしまわないで、どうぞ多くの人たちと分かち合ってください。イエス様はわたしたちがそれらのことを、多くの人に伝えること、すなわち「証し」を望んでおられます。

次回は「贖い(主)」です。お楽しみに。



「聖霊降臨日のペトロの説教」  
マソリーノ・ダ・パニカーレ (1383-1440)

このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証しして語った後、サムリアの多くの村で福音を告げ知らせ、エルサレムに帰って行った。

(使徒言行録 8 章 25 節)

